

# よきおとずれ

カトリック釧路教会だより  
〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10  
第4号 2015年12月8日発行



## イエズス様へすばらしいX'masプレゼント

御父である神様に永遠に感謝と賛美！

兄弟の皆さん、私が休暇で2ヶ月ほどイタリアにいる間に、私のためにお祈りして下さい、心よりお礼申し上げます。有意義な楽しい休みでした。

私もイタリアにいる間に皆さんとのつながりを祈りながら過ごしました。

10月末ごろ、神様の恵みにより、無事に日本に帰ることが出来ました。これからもよろしく願いいたします。

間もなく、イエズス様のご降誕を祝うでしょう。イエズス様がこの世に来られたのは、遊ぶためではなく、すべてを救うために来られました。そして救われた私たちを通して、他の人も救いたいのです。それには私たちは、どうしたらよいのでしょうか？

私の心には、次の考えが繰り返し、浮かんできました。祈り、祈り、祈りが必要です。すなわちもっと、もっと積極的に神様と一致すること。なぜなら、「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなし」(詩編127:1)からです。そして、神様の恵みに支えられ、イエズス様の心をもって、肉体的、霊的、物質

## マウリリオ ラザロ 神父

的に悩んでいる兄弟、迫害されている人たちを助けること。たとえば、病気の人を見舞い、悲しみにしずんでいる人を慰め、神様から離れている人と、信仰のために迫害を受ける人のために祈り、食べ物のない人のために自分の食事を節制して施す…など、など。

畏れることはありません、イエズス様は忠実なかたです。約束したことを守ってくださいます。

「憐れみ深い人々は幸いである。その人たちは憐れみを受ける。」(マタイ 5:7)、そうすれば、クリスマスのためにふさわしい準備ができるばかりでなく、イエズス様にとって、大好きなプレゼントであり、私たちにより深くクリスマスの神秘を味わう恵みが与えられます。

では皆さん、もう一回、言わせてください。「お互いに支え合って、よいクリスマスよい年、よい未来を迎えるように…お祈りいたしましょう。」



## 奉献生活と共同体

### フランシスコ会ヨゼフ修道院

ペトロ 阿部 慶太神父

1979年、釧路教会で受洗した当時は、キリストに従うために、特別な誓願を立てて自らをささげる奉献生活に入るとは夢にも思っていませんでした。

そんな私がこの生活に入ろうと考えるようになったのは、高校生活最後の夏休みに2週間以上、キャンプや合宿の準備や手伝いのために教会に泊まり込んだことがきっかけでした。

それまでは、釧路教会で働くフランシスコ会の神父様方について土曜、日曜の姿しか知らなかったのですが、教会に泊まり込んだことで、平日も日夜困った人、悩む人のために働く姿や、その生き方にじかに触れたり、今は天国にいる中国での宣教経験のある神父様方の話をじっくり聞く（聞かされた？）機会があり、この期間は「こうした生活や世界があるんだ」ということを知る機会になったのです。

ところで、釧路教会は多くの奉献生活者を送り出していますが、召命が多い共同体の特色として、神のみことばに耳を傾け、ミサの中でよく祈るだけでなく、生活に信仰が活かされている人々が共同体にいたことが挙げられます。こうした雰囲気は当時の釧路教会にありました。何も敬虔そうに見えるということではなく「神様がよくしてくれる」、「神様がなんとかしてくれるから大丈夫」といった言葉がよく聞かれたからです。

こうした共同体の雰囲気も奉献生活への召命を育てたと思います。私が修道院に入

る際も「大変な道だけど、神様がなんとかしてくれるから大丈夫」と送り出してくださった信徒の方々の声を思い出します。

今、考えてみると、もし釧路教会で入信しなかったなら、もし釧路教会に泊まり込まなかったなら、おそらく奉献生活について知らずに、または観ずに通りすぎたかもしれません。そうした意味で、共同体が信仰だけでなく、奉献生活への召命も育む場であることを改めて感じています。



### カトリック障害者連絡協議会全国大会

「主の食卓に招かれたものは幸い」というキリストのことばに誘われて

アシジのフランシスコ 植村 哲史

私がこの大会に参加したきっかけは、札幌の両親から「障害と生きづらさについて」という冊子を見せてもらったことでした。息子の「障害」に悩んでいた私はこの冊子を読んで大切なことに気付いた気がしました。

それは、現代社会における「生きづらさ」についてです。聖書では、バルテマイという盲人がイエスに目を見えるようにしてもらった場面があります。このとき、弟子たちや多くの群衆は盲人に対して大きな偏見と差別があるためにイエスとの間に壁を作っています。私は現代社会にも似た場面があると感じました。この「生きづらさ」について多くの人と話してみたいと思い、札幌で開催される全国大会に参加することを決めました。

大会は8月下旬、札幌藤女子大学で開催され、全国各地から約500名の参加がありました。基調講演後の分科会では「発達障害の仲間よ、集まろう！」というテーマで、分

かち合いに参加しました。「人とうまく付き合えない、自分は障害を持っているのでは」と悩む方、発達障害の児童を支援する教諭の方、家族や親戚に障害を持つ方達が自分の境遇と体験を話して下さいました。

分かち合えたことは、「人間は何らかの障害を持っていて、程度に違いがあるけれど、誰もが持っている」ということです。そして、「障害者をどうやって助けるか」ということではなく、「障害と共に歩む」ことの大切さに気付くことができました。

三年後にまた全国大会が開かれます。そのときは是非、家族で参加したいと思っています。



「信徒発見 150 周年記念長崎、外海、五島列島巡礼」の旅に参加して

ベネディクト 田附俊雄



### 関口神父様を囲んで

はじめに

去る 5 月 18 日から 22 日まで（4 泊 5 日）の巡礼の旅は、信仰生活のまだ浅い私にとって、大変意義深く実りあるものでした。同行の松井神父様と、十勝・釧路の参加者それぞれ 7 名、そして十勝や釧路の人達に馴染みの道内外より参加の方々 10 名からなる、計 25 名の巡礼団でした。

出発当日、夕方一時雨天だったことや、羽田からの飛行機が 2 時間遅れだったこと（外海、割愛）を除けば、2 日目から最終日まで連日好天に恵まれ、目的達成には幸いな旅でありました。

・5 月 19 日（長崎市内巡礼）

2 日目は長崎市内巡礼から始まりました。原爆爆心地、平和祈念公園、故永井博士の如己堂、浦上天主堂、日本 26 聖人殉教地、大浦天主堂（信徒発見 150 周年ミサ）等を訪れました。

そして、午後、五島に向かう私達は、再会のため駆けつけて下さった関口神父様に、長崎港でお見送りいただきました。嬉しい再会でした。懐かしさのあまり、娘も涙しました。そして夕方、いよいよ五島の福江島に到着しました。

・5 月 20 日・21 日（五島巡礼）

五島巡礼は福江島から始まりました。長崎県に 130 余りある教会のうち、五島にはその 4 割があると聞いていましたが、私たちはその中の 17 の教会と史跡を巡りました。それらは、荘厳な中に建築時の労苦を偲ばせる教会、樅の花柄を壁やステンドグラスにあしらっている等の美しい教会、そして弾圧と迫害の悲惨な歴史跡を今に残している教会、等という印象に分けられると私には思えました。

これらを通して、度重なる弾圧・迫害にもかかわらず、自分達の信仰を貫き通した先人の苦難の歴史や、厳しい立地条件や乏しい財力にもめげず自分達の教会を建て、守り通してきた篤い信仰心の現れを見ることができました。

殉教の例として、12 畳ほどの狭い牢に 200 人あまりの人（畳 1 枚あたり 17 人）が 8 ヶ月間押し込められ、飢え、病い、拷問のために老人、子どもを含む 42 人が死亡したという歴史をもつ「牢屋の窄殉教記念聖堂」や、船から見た「キリシタン洞窟」等が特に記憶に残りました。

また、現在 4 軒で教会を守り、そのうちの 2 軒は対岸の島から船でやってきているという例も知らされました。

この他、五島の記憶として特に残ったもので、夕方登った「矢堅目（やがため）」は正に圧巻でした。断崖から見た雄大な眼下の眺めには北海道の知床と重なるものがありました。渡辺神父様を知る東京の方とこの場所で記念写真を撮りました。

更には松井神父様の故郷の「頭ヶ島教会

（ミサ）」を訪れた後の夕方、神父様のご高齢のお母さまが庭に生っている蜜柑をお土産に、お宅の前で 2 人のお姉様達とともにバスを見送って下さり、私達が感謝のうちにお別れしたことも挙げられます。

#### おわりに

長崎や五島の由緒ある教会、五島の豊富なご当地料理、松井神父様のご丁寧なご案内、3 人のガイドさんの個性の違った名ガイド、添乗員さんの臨機応変で周到な手配、そして巡礼団の和気あいあいの雰囲気、これら全てが相俟って旅を素晴らしいものにしてくれました。終わって、これら全てに感謝しています。

おわりに、このような恵みの時を与えて下さった神様に心から感謝し、拙文の結びと致します。

~~~~~  
**いつくしみの特別聖年（2015 年 12 月 8 日～2016 年 11 月 20 日）が  
始まりました。**  
~~~~~

#### 編集後記

今年 4 月、主のご復活にあわせ、“よきおとずれ”の創刊号を発行し、今回 4 号を皆様にお届けできましたことを感謝致します。

毎号、各教会、そして今、さまざまな事情で教会に来ることの出来ない方達に郵送しております。この“よきおとずれ”が、私たち共同体の太く、強い、絆となっていくことを願いつつ、号数を重ねていきたいと思ひます。神に感謝

(M.W)

カトリック釧路教会 〒085-0018 釧路市黒金町 12 丁目 10

TEL 0154-22-5823 FAX0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会

(